

ヒラタケに発生する 白こぶ病とその防除

手軽に栽培できるヒラタケ

ヒラタケは炒め物や煮物、揚げ物など、向かない料理は無いと言えるほどに食材として万能なキノコです。また、野外の原木栽培も比較的容易です。近頃は、ホームセンターでキノコ栽培に使用する種菌や原木、栽培用の道具などが簡単に手に入ることから、手軽に栽培できるキノコの代表格と言えます。

ヒラタケ白こぶ病について

しかし、ヒラタケを野外で栽培すると、ときにヒラタケ白こぶ病が発生します。ヒラタケ白こぶ病は、ヒラタケのヒダに白いこぶ状の組織が生じる病気です。この病気は、ナミトモナガキノコバエが運ぶ線虫の一種によって生じることが知られています。キノコは普通に育ちますが、病害がひどい場合にはヒダ全体が白いこぶによって覆われてしまい、商品価値が低くなります。



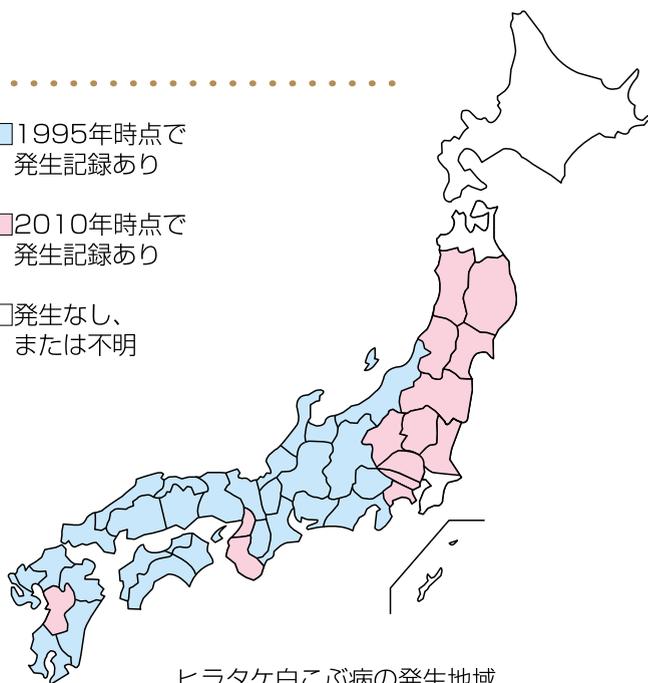
ヒラタケ白こぶ病

発生地域について

本病害の発生は、1970年代の終わりに屋久島、福岡、鳥取で同時期に発見されました。その後の1995年の聞き取り調査では、発生地域が西日本各地に拡大し、岐阜県を含む中部・北陸地方にまで及んでいることが判明しました。

今回、さらに15年経過した2010年には、関東や東北地方でも確認されていることがわかりました。発生地域は秋田や岩手にまで北上し、発見後約30年経過した現在では、ほとんど全国で見られるようになっています。

- 1995年時点で発生記録あり
- 2010年時点で発生記録あり
- 発生なし、または不明



ヒラタケ白こぶ病の発生地域
1995年の聞き取り調査は、津田氏
(現：岐阜県立森林文化アカデミー) によるもの。



被害調査の結果から

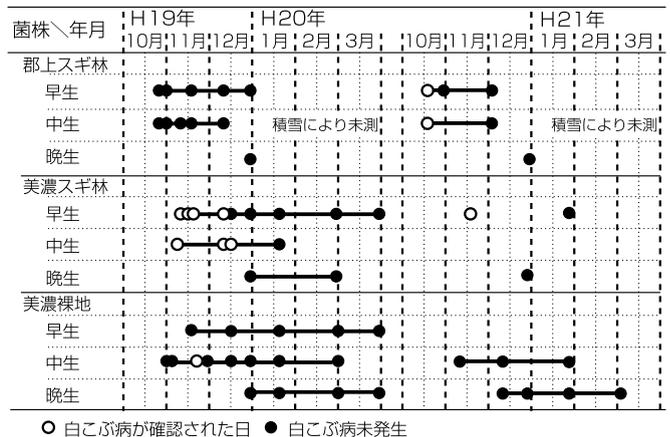
ヒラタケの原木栽培を行い、白こぶ病の発生の有無や発生時期を調査しました。栽培方法は、コナラの原木を長さ約20cmに切断して栽培袋に入れ、確実に菌を増殖させるために殺菌しました。殺菌後にヒラタケの種菌3菌株（早生、中生、晩生）を植菌し、21℃の空調施設で約3ヶ月間培養した後に県内の野外3ヶ所（表）に埋設しました。埋設は平成19年7月に行い、ヒラタケの発生時期と発生量、白こぶ病の発生有無を平成21年3月まで調査しました。ヒラタケの発生時期は概ね10月～3月でした。調査期間中、採取したヒラタケ（合計60回）のうち、白こぶ病の被害が確認されたのは11回でした。白こぶ病は埋設した3ヶ所いずれの場所でも確認されました。また、使用したヒラタケ3菌株のうち2菌株で発生しています。発生時期は場所によって若干異なりますが、10月中旬～12月中旬でした。

原木の埋設場所

埋設場所	標高(m)	現況
郡上スギ林	750	スギ林(42年生)、山脚、沢沿い
美濃スギ林	130	スギ林(35年生)、山脚、沢沿い
美濃裸地	110	苗畑、裸地

市販菌のヒラタケ(早生、中生、晩生)を植菌した原木を野外3ヶ所に各5本ずつ埋設した。

ヒラタケの発生と白こぶ病の有無



対策は防虫ネットの被覆

ヒラタケ白こぶ病の防除を目的として、網目1mmの防虫ネットをトンネル掛けして防除の効果を調査しました。防虫ネットを被覆した場合、調査したいずれの場所とも、ほとんど白こぶ病は発生しませんでした。また、防虫ネットの被覆によって、キノコの発生量が減少することもほとんどないため、防虫ネットの被覆は、白こぶ病の防除方法として有効でした。防虫ネットの被覆によって、線虫を運ぶキノコバエをキノコに近づけないようにできたためと考えられます。



防虫ネットの被覆